

学校法人豊南学園
信州豊南短期大学
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

信州豊南短期大学の概要

設置者	学校法人 豊南学園
理事長名	武田 昭二
学長名	武田 昭二
ALO	上田 渡
開設年月日	昭和58年4月1日
所在地	長野県上伊那郡辰野町中山72

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
言語コミュニケーション学科		100
幼児教育学科		100
	合計	200

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

信州豊南短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 7 月 22 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

「自主独立」という建学の精神及び「建学の精神にのっとり、学生の個性を涵養し、高い知性と豊かな情操を養い、郷土の文化を理解し、社会の福祉にも寄与するとともに、多様化する国際社会にも対応できる人間を育成する」という教育理念は、明確に示されて、周知徹底が図られている。

教育課程は教養教育、専門教育共に体系的に編成され、多様な学生のニーズに対応している。

教育の実施体制は、教員数、校地・校舎、図書館、教室等の教育設備、教員研究室、情報機器等短期大学設置基準を満たしている。学生が快適な学園生活を送るためのアメニティ設備も充実している。

学生の授業満足度は高く退学率も極めて低い。長期履修生制度、夜間授業枠の設定、編入学希望者への特別対応など、様々な学生のニーズにこたえている。

入学に関する情報は分かりやすく提供している。また入学予定者に対して事前ガイダンス・事前授業を行い、入学後の勉学に備えている。学習支援については、ゼミ担任制度を設け、習熟度別授業を行うなどきめ細かな指導が行われている。学生の成績評価は保護者にも知らせている。短期大学独自の奨学金制度も設けられており、公的奨学金を含めて多くの学生が奨学金を受けている。

過去 3 ヶ年の教員の研究活動は十分とはいえないが、専任教員全員に個別の研究室が整備され、研究時間も確保されるなど基本的な研究条件は整っている。

社会的活動は資格取得のための科目等履修生など社会人の受け入れを積極的に行うとともに、短期大学独自の公開講座「信州おもてなしカレッジ」や、町商工会、町立美術館と連携した授業も開設している。教育課程の中にボランティア活動を開設し、学生の社会的活動を推進している。学生の海外派遣については、ニュージーランドの大学と交流協定を締結して十数年にわたって実施している。

理事長のリーダーシップは適切に発揮されており、理事会、評議員会も適切に開催されている。教授会は講師以上が出席し、規程に従った事項が適切に審議されている。

事務組織の規模は適切で、事務関係諸規程に沿って業務が行われている。教員と事務職員との連携は良好である。

財務状況は、短期大学部門及び学校法人全体において収支バランスを欠いているが十分な余裕資金も有しているため、法人全体としての財務状況は安定の域にあると認められる。学生・教職員に対し災害や防犯に関する意識付けや訓練、省エネルギー啓発活動も行われている。

「自己点検・評価に関する規程」に基づき委員会が組織されて、点検・評価作業が毎年行われている。教職員のほぼ全員が「自己点検・評価報告書」の作成に参画し、組織や教育の改革・改善について意識している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生の日本語能力の向上を目指し、教員が独自の基準を設定して、習熟度別クラスを設置している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 夜間授業開講など社会人学生の受け入れに積極的に取り組んでいる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- ボランティア活動を重視し支援するために、教育課程にボランティア活動の科目を設定している。学生は地域において積極的に活動している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事長が頻繁に教職員に向けて学園の状況を説明する機会を設け、相互の理解と信頼を深めるよう努力している。

評価領域Ⅸ 財務

- 環境問題（省エネルギー及び、地球環境対策）を専門とする専任教員がいることから、その指導が大学全体に行きわたっている。

（２）向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善ができれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動は更なる組織的な体制により実践することが必要である。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金は十分であるものの、学校法人全体及び短期大学部門それぞれの収支バランスを欠いているので、改善が望まれる。

（３）早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「自主独立」という建学の精神、また建学の精神を基とした教育理念は明確に示されている。特に建学の精神は学校玄関の石碑に刻み、学生・教職員に常に意識してもらえるよう図っているほか、入学・卒業式など、様々な機会をとおして学長より語られている。またウェブサイトや学生便覧にも掲載するなど、周知徹底が図られている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

設置する2学科の教育課程は大学の教育理念・目標に合致したものと認められる。広く教養を高め、国際的視野と豊かな感性、コミュニケーション能力を有する人材の育成のために幅広い教養科目を設置しているほか、図書館司書資格など各種の資格を取得させ、地域社会に寄与できる人材を育て得る教育課程になっている。また幼児教育学科は、社会と深くかかわり、使命感や倫理観に満ちた教育者を育成すべく、実践的な教育課程になっている。教育課程の科目配列では必修・選択、講義・演習などのバランスも適切である。加えてシラバスを見る限り、大学の専門科目として十分な内容を備えているとともに、それに携わる専任教員等も適切に配置されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教育の実施体制として、教員数、校舎、図書館、教室等の教育設備、教員研究室、情報機器等すべてにわたって基本的な基準を満たしている。教員年齢構成についてはやや高齢化がみられるが、今後調整していける範囲内にある。

図書館は蔵書数、学科に適応した内容のバランス、座席数ともに整備され、図書館員も適切に配置されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

シラバスには各科目の授業内容、教育目標も掲げられ、それに沿って教育が行われている。学生による授業評価が実施され、授業の満足度は教育目標がほぼクリアされている。そのため退学率も低い。単位の取得状況も常識的な範囲で行われている。

教育目標を達成するために、長期履修生制度、夜間授業枠の設定、編入学希望者への特別対応など、様々な努力をしている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する情報は分かりやすく提供されている。また入学予定者に対する支援では事前ガイダンス・事前授業を行い、入学後も勉学モチベーションを持ち続けさせるための指導を行っている。

学習支援については、ゼミ担任制度、オフィス・アワーを設置している。また成績発表時にはゼミ担任から各学生の学習状況を保護者に送付するなど細やかな配慮がみられる。

学習進度の遅い学生や進度の速い学生のために習熟度別授業を行うなど適切な指導を行っている。学生生活を豊かにするためのアメニティ設備はほぼ揃っている。

公的奨学金以外の奨学金制度も設けており、公的奨学金・学内奨学金を合わせた受給率は高い。

また、社会人学生等にも便宜を与える制度がある。

評価領域Ⅵ 研究

過去3ヶ年間の教員の著作数、論文数、学会発表数等は十分とはいえない。学科改組、教育改革等の状況の中で、十分な研究時間を教員各自が取れなかったと考えられる。研究室、研究時間等の研究条件は基本的に確保されているので、研究活動をより活性化させていくための仕組み作りが必要である。

評価領域Ⅶ 社会的活動

短期大学独自の講座「信州おもてなしカレッジ」や、町商工会、町立美術館と連携した公開講座、公開授業を開設している。また地域の自然保護活動にも積極的に参加している。

設置両学科には教育課程の中にボランティア活動を開設し、学生のボランティア活動を推進している。

国際交流については、ニュージーランドのカンタベリー大学と一定の交流を行って

いる。

評価領域Ⅷ 管理運営

各種委員会の規程が整備され、それに沿って学校運営、教育がスムーズに行われている。理事長のリーダーシップは適切に発揮されている。理事会、評議員会も適切に開催されている。教授会は講師以上が出席し、規程に沿って各種委員会や学科会から提出された事項や、教学・研究等について審議されている。

事務は、事務関係諸規程に沿って業務が行われ、公印、重要資料等も規程どおりに適切に管理されている。

教員と事務職員との連携は比較的良好にできている。また学校法人と教職員とが情報の共有に努めている。

評価領域Ⅸ 財務

財務状況は短期大学部門及び学校法人の消費収支において支出超過の状況にある。しかもこの3ヶ年でみた場合、消費収支のバランスが徐々に深刻になりつつある。ただし、十分な余裕資金も有しているため、学校法人全体としての財務状況は安定の域にあると認められる。借入金による負担もいまだ軽い状況にあり、貸借対照表は一応健全に推移している。

人件費比率は比較的高い割合を示しているが、これは新学科設立時の一時的状況と考えられる。大学の施設設備は規程に沿って適切に管理されている。以上のような財務状況を法人は明確に認識し、展望を持って財務体質を好転させようとしている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

「自己点検・評価に関する規程」が整備され、委員会も組織されて点検作業が毎年行われている。

教職員のほぼ全員が「自己点検・評価報告書」の作成に参画している。またこの結果は授業方法の改善や教育課程の点検にも生かされている。